

第1回 住環境・コミュニティ部会 主な意見

●高齢者の孤立等に関する課題

- ・募集を止めた市営住宅は入居者が減り、高齢者等が住み続けることに不安を抱えている
- ・建替えまでの間も高齢者は住んでいる。孤立しないような支援が必要（EV 階への移転など）
- ・話し合いをする機会や出かける所がなく、自治会などの集まりにも出てこない、ひきこもり状態の高齢者がいる。そういった人達を外へ引き出す方法を考える必要がある
- ・ふれあい喫茶のようなものだけでなく、例えば麻雀やカードゲームなどをしては
- ・仕事を引退した人が、小遣い稼ぎができる作業場のようなものが有効ではないか

●地域の子育てに関する課題

- ・青少年センターなどの施設の情報が行き届いてない、どろんこ子ども会に幸小学校以外の生徒が参加しにくいなど、もっと地域の情報を横のつながりで共有しあう必要

●まちの目標

- ・今のコミュニティがバラバラにならず維持できるように、まちの目標を立てるべき
- ・複雑な家庭環境の世帯も受け止められるのがこの地域の良さ。こうした世帯をコミュニティの輪に入れることを目標にしたい
- ・大変な家庭環境下の子が子ども多く、にじのとしょかん等は、地域のセーフティネット的役割。こうした場合は地域が大事にしたことのアピールにもなる。
- ・このまちはサポートを受けられる、ということが伝わるまちづくり、今まで培ってきたものが残っていくまちづくりにできたらよい。

●施設や住宅などの将来のまちの姿

- ・診療所を中心に高齢者や障がい者向けの住宅を集めた福祉ゾーンをつくっては
- ・まちの真ん中に盆踊りが出来る広場（放光池公園の代わり）
- ・新たな施設を作る場合、池上町や富秋町からも行きやすいまちの真ん中に作るべき
- ・青少年センターなど分かりやすく目立つ場所に移転
- ・校区内に図書館があると良い。新たに作るなら自習室も併設しては。
- ・子どもがボール遊びできる場所がない。自転車で行ける距離に運動できる場所があるとよい。
- ・市営住宅の周りに、施設を集約して多機能施設（コミュニティ支援や防災）を作っては
- ・建替え後は世帯のニーズにあった多様なバリエーションの住戸タイプがあるとよい
- ・市営住宅の下階に高齢者、上階に若者など、多世代ミックスのコミュニティを作っては

●空き住戸をリノベーションして出来そうなこと（アイデア）

- ・若い人向けの 1LDK 住戸、アトリエ付住宅
- ・ネット販売できる店舗
- ・高齢者と若者が一緒に運営するシェアハウス
- ・補修しない代わりに家賃を半年分減免する DIY 住宅
- ・市営住宅の空き住戸に桃山学院大学の学生寮を作っては。地域の親しみやすい学生が子どもに勉強を教えれば、学力アップにつながる